

## 金沢大学十全医学会雑誌について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/24332">http://hdl.handle.net/2297/24332</a>

## 「金沢大学十全医学会雑誌について」

本誌は、金沢大学医学部（現医薬保健学域医学類）の卒業生、現教員および元教員を中心に構成される「十全医学会」が発行する学術誌である。第四高等学校医学部十全会雑誌第1号（明治29年11月25日発行）に始まり、今年度は第119巻となる。年4回発行の季刊誌であり、発行部数は平成22年2月現在、会員数（1944）に他機関との雑誌交換数98、外国郵送数10を加えた2000部余である。

本誌の記事は、大きく、会員の投稿による原著と編集部の依頼による総説に分けられる。前者には論文（full paper）、短報（short report）、症例報告（case report）などの形式があり、いずれも編集委員（8名の教授、准教授からなる）またはその委託を受けた会員による査読を経て掲載される。日本語のほか、英語による投稿も可としている。後者には医学系の若手教員による各自の研究内容についての総説のほか、博士および修士課程優秀論文、十全医学会賞受賞論文などが含まれる。その他、主に新任教授による研究紹介、学会開催報告、大学院生による学会見聞記などの記事がある。

かつての本誌は、博士号取得のための原著論文がほとんどを占め、毎号あたりの掲載数もきわめて多かった。近年、原著の掲載数が激減している。その理由としては、論文博士（乙）の件数が減少したことや、本誌以外の学術誌、特に英文誌に掲載された論文で学位を取得する件数が増えたことが考えられる。編集委員会としても対策を考えてはいるが、この傾向は今後も続くと思われるので、本誌に学位論文を掲載することの意義を指摘させていただきたい。学位が個人に与えられるものである以上、本人の単著が学位論文に最もふさわしい。また日本語であっても本人自身が書いた論文は、共著者である指導教員が大幅に関与した英語論文よりも学位にふさわしいであろう。さらに、海外誌に掲載する論文では受理されることを最優先として文章の長さや図表の数は制限せざるを得ないが、本誌の論文では比較的自由に多くのデータを図表として出し、十分な長さの考察を書くことができる。日本語の学位論文を書くことで論文の書き方の訓練ができる。今後研究者として多くの論文を出していく人にとっても、また学位論文以後はあまり論文を出さない人にとっても、一生に一度の博士論文を母校の学術誌に掲載することは意義深いと思うがいかがであろうか。

最後に、博士論文以外での投稿もお勧めしたい。まず短報は、長さの制限がある他は論文と同じ形式である。医科学専攻修士課程修了者が学位取得後に研究の内容を短報として投稿する場合には、投稿料の一部を学会から補助している。また本年度から、症例報告その他の臨床的論文の投稿を推奨するため、投稿規定を作成した。近年、学会認定専門医の取得動機が高まり、初期臨床研修必修化以降の大学院進学率の低迷とも相まって、博士号の取得動機が相対的に低下する傾向さえ認められる。専門医取得にも論文業績は必要である。通常の研究論文にはならなくても、日常の臨床業務で経験した症例等を本誌に投稿されてはいかがであろうか。さらに、学位をすでに有する会員の研究論文や総説の投稿先として、専門雑誌以外に本誌を考慮に入れていただけないだろうか。今年度から投稿料が大幅に値下げされたことでもあり、自身の業績を増やすとともに十全医学会の学問的アクティビティーに貢献するためにも、本誌への原著の投稿に会員のご協力をお願いしたい。

十全医学会雑誌編集委員長

井 関 尚 一